



「特許ライティングマニュアル」のご紹介

令和3年3月5日

一般財団法人 日本特許情報機構(Japio)

特許情報研究所 調査研究部 研究企画課長

久々宇 篤志



- 人による特許明細書作成実務をガイドし、コンピュータによる特許ライティング支援機能を実現する基礎となるもの
- 2013年に発行した第1版の内容を見直して、2018年3月に改訂版発行
- 産業日本語研究会のホームページから**無料**でダウンロード可能

改訂版発行以来
ダウンロード数は1500以上

<https://www.tech-jpn.jp/tokkyo-writing-manual/>

1. 短文にする

～短くシンプルな文にする～

•一文を短くして複雑な係り受けをなくすことで、人間の理解が容易になり、誤訳を減少できる。ただし、短文化する際には、意図しない内容とならないように注意する。

2. 省略しない

～隠れている要素がないか
注意する～

•主語や目的語などの省略された要素を明示して、文意を明瞭にする。

3. 理解しやすい 構成にする

～文の構造に注意する～

•文の構造を工夫することで、理解しやすく翻訳しやすい文にすることができる。

4. 横並びの要素の 表現を揃える

～対等に並べ意味に注意する～

•要素を対等に並べることで文章に構造をもたせ、係り受けを明確にし、理解しやすくする。

5. 読点を工夫する

～係り受けや文の構造を
明らかにする～

•適切な位置に読点をつけることで、係り受けや文の構造を明らかにする。

6. 簡潔にする

～シンプルな表現にする～

•不要、冗長、難解な表現を避け、元の文の意味が変わらない分かりやすい表現を用い、シンプルな表現にする。

7. 言い換える

～誰にでも伝わる表現にする～

•多義的な表現やあいまいな表現は、明確・具体的な表現に改める。また、日本語独特の表現は、訳しやすい表現に改める。

特許ライティングマニュアルの ポイント

- 7つのカテゴリー、27のルールで体系化された構成
- 改善の具体例を豊富に掲載
- 27ページであり、コンパクト
- **特許のみならず、技術文書にも適用可能！**

- 特許ライティングマニュアルは、特許文書を人に理解しやすく、かつ、機械にも処理(翻訳)しやすい様に作成するためのもの
- 人にとっての「理解しやすさ」と機械にとっての「翻訳容易」とは同じではない
- AI翻訳(ニューラル機械翻訳)にとっての「翻訳容易」は、これまでの機械翻訳(ルールベース翻訳、統計翻訳)にとっての「翻訳容易」と異なるのだろうか？
- ニューラル機械翻訳が前提となる昨今、特許文書として気をつけるべきポイントは？



ポスターセッションにて、書き換えの具体例やニューラル機械翻訳のための特許ライティングの検討について紹介します！
ぜひお越しく下さい！